

## 令和5年度 第3回豊田市地域保健審議会

開催日時：令和6年3月18日（月） 午後1時～午後2時30分

場所：豊田市役所東庁舎7階 東大会議室3、4

出席者（敬称略）：加藤真二（会長）、田代和久（副会長）、安藤広重、岩月幸雄、大橋一之、酒井恵子、重松良祐、中出美代、宮澤清人、吉田哲也

（欠席者）：谷友一郎、長谷川喜代美

（市側出席者）古澤保健部長、竹内保健所長、佐野保健部副部長、都築総務課副課長、近藤保健衛生課副課長、河合感染症予防課長、長島地域保健課長、寺田保健支援課長、宮川こども家庭課長、野嶋感染症予防課感染症業務担当主幹、鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹

●古澤保健部長  
豊田市挨拶

●竹内保健所長  
豊田市挨拶

○加藤会長  
審議会会長挨拶

### 議事

#### 【報告事項】

（1）健康づくり豊田21計画（第四次）について

○重松委員

「健康づくり豊田21計画（第四次）」策定委員会において会長を務めている重松です。本会は、2月1日に令和5年度第4回の策定委員会を開催しました。詳細については、事務局から説明をお願いします。

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹  
健康づくり豊田21計画（第四次）について説明

○加藤会長

これまでの説明に対しまして、ご意見等はありませんでしょうか。

○吉田委員

個人的な意見として言わせていただきたいのは、10代のオーバードーズが最近かなり問題になっていますが、教育としては小学校から必要になってくるのではないかと考えています。ですので「健康づくり応援課は～、地域、学校、企業等へ」とあって「学校」の中に小学校も含まれると思いますので、自殺予防ということで、セルフ・エスティーム、自己肯定感の教育も含めて、そういう話も積極的にしていただければと思います。よろしくお願いします。

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹

計画の体系の施策メニューの「薬物乱用防止等に関する啓発の推進」というところで、薬物に関することは啓発を行っていきたいと考えています。また、重点取組の「多様な支え合いによる生きることの包括的支援の推進」が主な自殺対策の取組になっています。こちらにつきましては、教育委員会で、各学校で「いのちを大切に教育」を行っていくこととなっておりますので、薬剤師さん達との連携も当然しながらやっていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

○岩月委員

計画書のP.22の重点取組2でヘルスサポートリーダーを取り上げていただき、大変期待をされていて恐縮ですが、一時は350人くらいまで会員も増えて活動していましたが、コロナの影響もあって今年度末は220名余まで減ってしまいました。また、28中学校区全部で活動していたところが、4地区が活動を休止したという状況です。なにせボランティアということで素人の集団ですので、活動についてしっかりとサポートをお願いしたい。自分達で機会を作って活動していくのはしんどいところがあって、いろんな機会を作っていただいいてお手伝いから活動が始められるようにしていただけるとありがたいです。しっかり頑張るつもりですので、要望ということでお願いいたします。

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹

ヘルスサポートリーダーの活動がコロナの影響もあって低下しているという話は承知しています。他のボランティアの団体もいますので、そういった方達とも連携して輪を広げながらやっていけたら良いのかなと考えています。

○加藤会長

健康寿命について、厚労省の出している健康寿命と違うカテゴリーの物を使っていて、全国平均の数値が大きく違っていています。一般的な方法で算出した方が他

の地域とも比較がしやすいと思いますので、確認していただけますでしょうか。

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹

何種類か算出方法があることは承知していますが、今の健康の計画ではこの出し方を使ってきていますので、前回計画との比較のために同じやり方で算出しています。他の地域とも比較がしやすいということであれば他の出し方でも比較を試みたいと思います。

【報告事項】

(2) 地域における健康危機管理に関する保健所等の計画の整備について

●河合感染症予防課長

地域における健康危機管理に関する保健所等の計画の整備について説明

○加藤会長

ただいまの説明に対して、何かご意見ご質問はありますか。

○安藤委員

福祉の分野もそうですが、コロナのインパクトが強すぎて、BCP は常に感染症のことが優先になっています。災害全般での福祉は、今回の能登半島地震でも見られるように、被災者・避難者の健康管理などが重要ですが、結構後手に回っているような雰囲気です。地震は突然来ますが、台風とか感染症はじわっと来ますので、突然来た時の対策もしっかり計画に入れておいていただきたいです。

【報告事項】

(1) 今年度の重点取組について

●河合感染症予防課長

重点取組事業の項目番号1「新型コロナウイルス感染症対策の推進及び感染症危機管理体制の整備」、重点取組事業の項目番号2「平時からの感染症予防対策及び大規模災害等発生時の体制強化」(1)(2)、重点取組事業の項目番号6「日常における食品衛生及び環境衛生の安全・安心の確保」(4)について説明

●都築総務課副課長

重点取組事業の項目番号2「平時からの感染症予防対策及び大規模災害等発生時の体制強化」(3)(4)、重点取組事業の項目番号3「まちぐるみで取り組

## む心とからだの健康づくりの充実」について説明

### ●長島地域保健課長

重点取組事業の項目番号4「地域特性に応じた地域主体の健康づくりの充実」について説明

### ●寺田保健支援課長

重点取組事業の項目番号5「精神障がい者や難病患者等の自立支援体制の推進」について説明

### ●浅井保健衛生課長

重点取組事業の項目番号6「日常における食品衛生及び環境衛生の安全・安心の確保」(1)～(3)、重点取組事業の項目番号7「人と動物の共生社会の推進」について説明

### ●宮川こども家庭課長

重点取組事業の項目番号8「子育て家庭への寄り添った支援の充実」について説明

### ○加藤会長

ただいまの説明に対して、何かご意見ご質問はありますでしょうか。

### ○重松委員

今回は報告ですので、今後可能であれば盛り込んでいただきたいのですが、計画について大事なメッセージは多言語で、たくさんいらっしゃる外国の方にも情報が伝わるように、リーフレットでもよいのでいろんな言葉に訳すといいなと思います。また、災害についてですが、災害後1～2か月くらい経つと運動が大事ということで、避難所等でニーズが結構あります。今回の能登半島地震でも、仙台や石巻の人から「能登へ行きたいがどうすればよいか」と私のところへ連絡があって、話を聞くと、医療体制はしっかりしていますが、少し落ち着いた後に運動したいという時に、「運動をここでやりたい、ここに人がほしい」といってもどこに誰がいるのかわからない、人材バンクが存在しないということです。これは東北の際も聞きましたが能登でもそのようですので、豊田市でも動ける人が「お願いします」と発信したら集まってもらえるような、監修できるような仕組みがあってもよいかと思います。高齢者の研究をよくやっていますが、実は子どもの心も結構被災地で問題になっていて、遊びたいけど避難所で遊ぶと他の方へも影響があるので遊べない、そういう子どものストレスについて研究している人もいます。災害の前にそういうところとうまくコラボレーションして、避難所

でも運動できるような仕組みづくりを今のうちから整えておくとういと思ひます。

#### ○中出委員

災害緊急支援から帰ってきた栄養士に話を聞くと、アレルギー食をどうしたら良いかわからない、保管場所がわからないけどアイスクリームが届いたなど、現場はかなり右往左往してひいて、役所の人も疲弊して物凄く疲れていたけど、そこで熊本から来てくださっている人が落ち着いていろいろ話をしてくれて場が何とか収まったということでした。教科書的ではないこともたぶんあると思うので、災害経験者の方の話を聞ける機会がやはりあった方がいいと思ひます。今回、名古屋市内の施設は結構ドクターヘリで高齢者のところへ行ったそうですが、下着や靴下等の身のまわりの物が無いからどうしようという話があつて、経験した人でないとうかわからないことはたくさんあると思うので、そういうことをまとめるのは大事かなと思ひました。もう一点は資料3-1のP.4の健康づくりプランの実績「大学と連携した食育検討」ですが、なかなか大学の方から声をかけるのは難しいので、市の方から「こういうことができませんか」と声をかけていただければ、大学としても行政と組むのは凄く学びになります。よろしくお願ひいたします。

#### ●都築総務課副課長

保健部からも医師・保健師等を被災地へ派遣しており、市役所全体でみるといろいろな部門からもたくさん出ております。下着等の話もありましたが、防災部局が主体となりますが全庁的な中で経験者が非常に重要だということは認識しておりますので、それを踏まえて活かしていければと思ひます。健康づくり計画につきましては、計画の中で「若い世代を中心に」と記載し大学との連携を重要としておりますので、何かありましたらよろしくお願ひいたします。

#### ○加藤会長

重点項目5で障害者の自立支援の話がありましたが、市の自立支援協議会は保健部と福祉部のどちらがやっているのでしょうか。

#### ●寺田保健支援課長

障がい者自立支援協議会は、障がい福祉課が事務局をしております。

#### ○加藤会長

総合事業と健康、自立支援が絡み合っているなので、一本にまとめた方がうまくいくような気がします。ぜひ考えていただけたらと思ひます。自分達が話を持っていこうとしてもどこへ持っていけばいいのかわからない、となつてしまひます。それでは引き続き、全体について、ご意見をお願ひいたします。

### ○大橋委員

会社で健康診断があるので働いている本人は 100%に近い受診率ですが、扶養されている方の受診率は4割か5割くらいです。また、歯の健康については、定期検診に3年行っていない方が6割くらいとの報告でした。我々連合の方針にもしっかりうたっていきませんが、市・自治体と縦横連携して健康な状態をつくっていく取組をしていくのがよいと考えております。

### ○田代委員

おっしゃるように豊田市でも妊産婦歯科健診、成人歯科健診の受診率がかなり低いです。受診率が向上するような方策を我々が取り組んで考えていかななくてはいけないと考えております。

### ○酒井委員

私は視野を広げながらいろいろな所に所属しています。高齢化社会になっていて、ボランティア団体も活動に支障を来している状況です。こども家庭課では母子保健推進員をしていて、「妊婦さん電話」では事業につなげる役と思い一生懸命やっていますが、先日は私に相談に乗ってほしいと強く要望されたこともありました。高齢者については赤十字に関係していますが、そちらでも今後一人住まいの世帯が孤独死になるのをどうしていけばよいか相談を受けています。また、母子保健推進員では「たべまるくんとはじめての歯みがき」を今やり始めています。新しい乳幼児とママに歯みがきの仕方を専門的には歯科衛生士が教えますが、私達は顔を触って口の中を開けるとか、嫌がらずに楽しくやるということを教えています。いまのところお母さん達にも関心を持っていただいているので、私達も次の歯科衛生士につなげるパイプ役ができるといいなと思って、そんなボランティアをしています。一市民としての立場ですが、豊田市で何か役に立てないかと思っていますので、ぜひ利用していただいて皆さんのお力になれるとうれしいなと思っています。また、災害はいつ起こるかわかりません。いま「災間（さいかん）」と言われていますが、今回の能登でも、トイレがない、水がないと、そんなことはわかっていたことではないかなと思います。イギリスではまずトイレを設置する、水を用意する、温かい食事ができるようにしています。人間にとって何が大事かというところを考えて、どんな災難・災害があってもどう対処することがベストなのかということを経験の中でみんなで話し合っていて、それでベストな方法をいち早く提供できるようにしていただきたい、というのが一市民としてのお願いです。

### ○安藤委員

先ほど会長が言われたように、福祉部と保健部の連携が凄く大事ななと思っています。福祉部の、高齢者の方の相談窓口として地域包括支援センターが28カ所

あります。豊田市は介護保険の受給者数が15年後くらいにピークになるそうです。それは地域包括支援センターで受け止めればよいということですが、職員が十分確保できないという状況が待っています。社会福祉士は何とか確保できるのですが、特に保健師や主任ケアマネが確保できない状況です。そういうこともありまますので、保健部との連携が一番大事だと思っていますので、よろしく願いいたします。

○加藤会長

その他よろしいでしょうか。では、ご意見が出尽くしましたので、議事についてはこれにて終了したいと思います。

— 以上 —